

南米[ブラジル]



1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の最新の農牧センサス（2006年）によると、ブラジルの農業経営体520万戸の所有面積は3億5490万ヘクタールで、このうち農耕地が7670万ヘクタール、牧草地が1億7230万ヘクタールとなる（表1）。2011/12年度（10月～翌9月）には農耕地の66%に当たる5086万ヘクタールが穀物生産に向けられた結果、穀物生産量は前年比2.1%増の1億6619万トンとなった。

畜産分野では、2011年の牛肉生産量は、米国に次ぐ世界第2位、鶏肉生産量は米国、中国に次ぐ3位となった。また、豚肉生産量は米国、EU（27カ国）、カナダに続いて世界4位を記録した。輸出量は鶏肉は世界第1位、牛肉は2位、豚肉は3位となった。

2011年の農産物（農畜産物、林産物および水産物）輸出額は、国際金融危機の影響から回復したことに加え、上半期がドル安レアル高で推移したことで、前年比23.7%増の946億ドルと過去最高を記録した。同年の農産物輸入額を差し引いた貿易黒字は775億ドルとなり、農業部門が国の対外収支に重要な役割を果たしていることを示している。

図1 ブラジルの地図（行政区別）



資料：機構作成

表1 農場面積と農場数の推移

	（単位：千戸、千ha）					
	1970	1975	1980	1985	1996	2006
農場数	4,924	4,993	5,160	5,802	4,860	5,204
農場面積	294,143	323,894	364,853	374,925	353,611	354,865

資料：IBGE（ブラジル地理統計院）

2 畜産の動向

（1）牛肉

ブラジルの肉牛生産は、1億7230万ヘクタールの牧草地を利用した放牧肥育が中心で、耐暑性に優れた

インド原産のゼブー系ネローレ種が主に飼養されている。

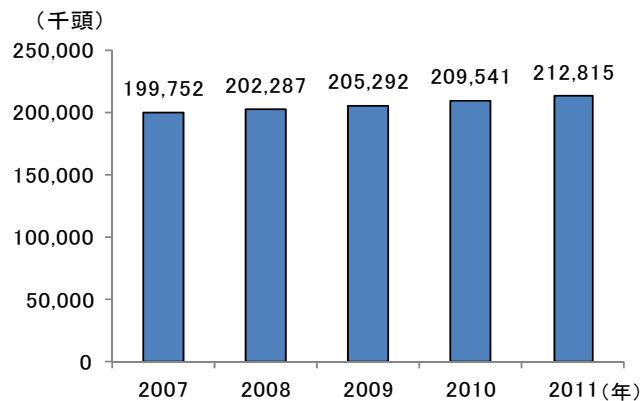
2008年に米国で端を発した国際金融危機以降、ブラジルの大手パッカーの一部では、買収、合併による事業拡大を通じた経営の合理化を図る動きが見られた。ブラジル第3位の食肉パッカーのMARFRIG社が2010年6月、米国の大手食品会社KEYSTONE FOODS社を買収したことにより、ファストフード部門へ進出したのがその例である。

ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んでおり、その結果、多くの地域がワクチン接種清浄地域となった。2007年には、南部のサンタカタリーナ州が、ブラジル初の口蹄疫ワクチン不接種清浄地域のステータスを取得した。また、国としてのBSEの清浄性は、「管理されたリスク」と評価されている。

① 飼養動向

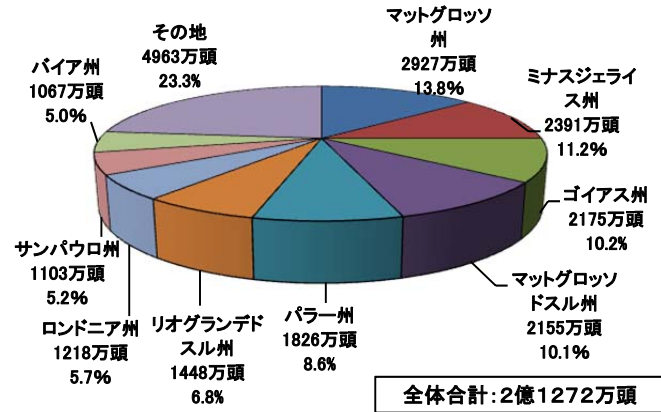
2011年の牛飼養頭数は、前年比1.6%増の2億1282万頭となった(図2)。州別で見ると、前年に引き続きマットグロッソ州が2927万頭で最も多く、全国の13.8%を占めた。次いでミナスジェライス州の2391万頭、ゴイアス州2175万頭、マットグロッソドスル州2155万頭が続いており、これら上位4州で全体の45.3%を占めた(図3)。

図2 牛飼養頭数の推移



資料: IBGE

図3 州別飼養頭数(2011年)



資料: IBGE

② 牛肉の需給動向

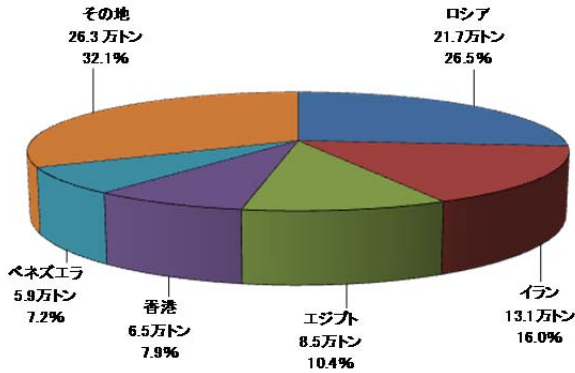
ア 生産

2011年のと畜頭数は、前年比1.6%減の2882万頭、牛肉生産量は前年比3.8%減の844万8400トン(枝肉換算)と1年ぶりに減少に転じた(表2)。これは、2005年~2008年の間に、干ばつにより繁殖用雌牛のと畜割合が増加したことが影響し、肥育牛の出荷頭数が減少したことによる。また、主要な生産地域では、長期の乾燥や低温が牧草の生育に影響を及ぼしたことから、早期と畜が促され、結果的に牛肉生産量は減少した。

イ 輸出

2011年の牛肉輸出量は、前年比14.5%減の132万1942トンであった。このうち、冷蔵は、2011年9月のパラグアイでの口蹄疫発生により、パラグアイ産牛肉の輸出が停止したことを受け、チリなどがブラジル産で代替したため、輸出量は、同10.2%増の8万8882トンとなった。一方、冷凍は、主要輸出先のロシアが、2011年初めより衛生問題を理由に、一部のブラジル産牛肉を含む食肉の禁輸措置をとったことにより、同10.0%減の72万7396トンとなった(図4)。

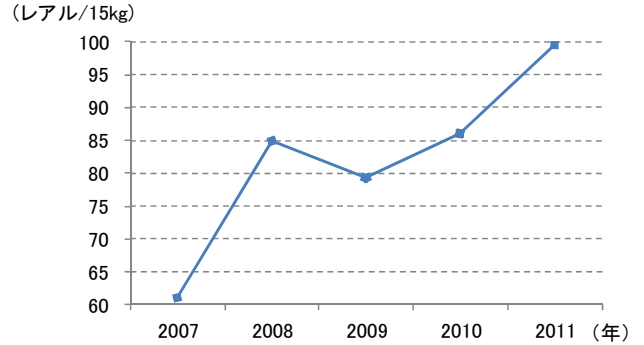
図4 牛肉(冷凍、冷蔵)の輸出先国(2011年)



資料：ブラジル開発商工省貿易局(SECEX)

の枝肉1キログラム当たり7.77レアルとなった。牛肉価格は、前年から引き続き高止まりが続いた。

図5 肥育牛生産者価格の推移(サンパウロ州)



資料：CONAB

ウ 消費

2011年の国内消費量は、前年比1.9%減の699万8600トンとされ、1人当たり年間消費量は、同2.6%減の35.5キログラムとなった(表2)。牛肉価格が高止まりしていることを受けて、牛肉消費量は減少に転じた。

表2 牛肉需給の推移

(単位:千トン、kg)

	2007	2008	2009	2010	2011
生産量	10,082	8,839	8,474	8,783	8,448
輸入量	31	30	41	41	45
輸出量	2,285	1,919	1,767	1,702	1,495
1人当たりの消費量	41.7	36.6	34.9	36.4	35.5

資料：CONAB(国家食糧供給公社)

注：枝肉重量ベース

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム単位(アローバ)で示される。2011年の肥育牛の年間平均価格(サンパウロ州)は、前年比15.7%高の1アローバ(15キログラム)当たり99.52レアルであった(図5)。卸売価格(同州)は、前年比13.5%高

(2) 養鶏、鶏肉

国際金融危機の影響が緩和した2011年は、内需・外需の高まりを背景に、生産量・輸出量ともに過去最高を記録した。

国内1位の鶏肉パッカー、ペルジゴン社と第2位のサジア社の合併後の新会社ブラジルフーズ(BRF)社は、2009年の合併後、国内市場独占禁止監督機関(CADE)による国内事業活動の承認に時間を要していたが、2011年7月に正式に承認された。

承認時の協定では、最大手同士の合併のため業界の寡占化を防ぐ策として、BRF社に一部資産の売却等が義務づけられた。

この合併により、BRF社は国内鶏肉生産量3割以上、輸出量は5割以上のシェアを持つこととなった。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産動向

2011年のブロイラー用ひなふ化羽数は、2008年9月に端を発した国際金融危機からの回復基調を強め、

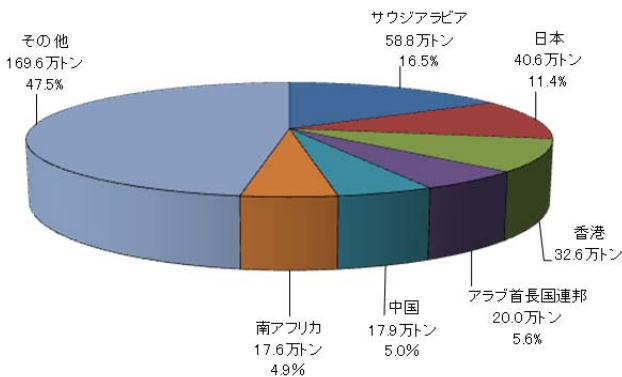
前年に引き続き、国内消費の増加などから、前年比4.0%増の62億3260万羽となり、1カ月当たりのふ化羽数は約5億2000羽となった(表3)。鶏肉生産量は、肉牛不足に起因した牛肉価格の高騰によって鶏肉へと需要がシフトしたことで増加し、2010年に比べ、4.5%増の1286万3200トンとなった。

イ 輸出

2011年のブロイラー輸出量(骨付きベース)は、主要輸出国からの需要増や新たな輸出先の確保により、前年比3.2%増の357万トンとなり、過去最高であった前年の輸出量を更新した。形態別では、パーツが全体の57.9%、丸どりが42.1%となっており、輸出先国は、サウジアラビア向けが全体の16.5%、次いで日本向けが11.4%、香港向けが9.1%となった(図6)。第5位の中国向けの輸出量は、前年から7万4000トン程度増加し、全体の5.5%を占めるまでに拡大した。

輸出額(加工品を含む)は、為替相場が2009年からドル・レアル高傾向で推移する中、前年比22.0%増の70億6321万ドルと、過去最高を記録した。

図6 鶏肉の輸出先国(2011年)



資料: SECEX
注: 出典が異なるため、表3の輸出量の数値とは一致しない。

ウ 消費

2011年の1人当たり年間鶏肉消費量は、前年比4.1%増の45.2キログラムとなった。牛肉価格の高止まりで鶏肉需要が増加したため、消費量は増加した(表3)。

表3 鶏肉需給の推移

(単位:百万羽、千トン、kg)

	2007	2008	2009	2010	2011
ひなふ化羽数	5,145	5,463	5,557	5,987	6,233
生産量	10,305	11,033	11,021	12,312	12,863
輸出量	3,287	3,645	3,634	3,820	3,943
1人当たりの消費量	38.1	39.7	38.2	43.4	45.2

資料: CONAB
注: 出典が異なるため、図6の輸出量の数値と一致しない。

② ブロイラーの価格動向

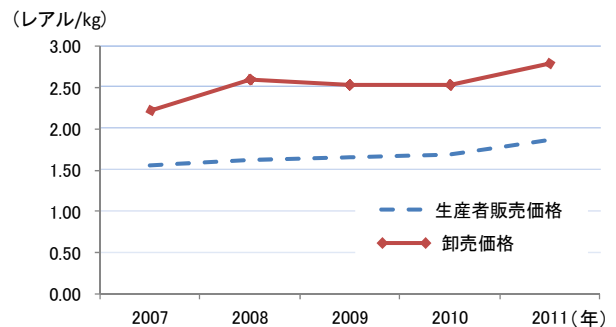
ア 生産者販売価格

2011年の生産者販売価格(サンパウロ州)は、前年比10.8%高の1キログラム当たり1.87レアルとなった(図7)。国際的な穀物相場の高まりを受け、国内市場に供給される飼料穀物の価格も上昇し、生産コストは上昇した。加えて、人件費も引き続き上昇しているため、販売価格は上昇した。

イ 卸売価格

2011年の卸売価格(サンパウロ州)は、前年比10.6%高の同2.79レアルとなった(図7)。

図7 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)



資料: CONAB

3 飼料穀物

ブラジルは、トウモロコシの生産量が世界第3位（2011/12年度）、輸出量が4位（同）である。トウモロコシの作付けは、夏作（第1期作）と冬作（第2期作）の年2回行われ、第1期作はパラナ州（南部）、第2期作はマットグロッソ州（中西部）が最大の生産地となっている。パラナ州をはじめとした伝統的に生産が盛んな南部3州（ウルグアイ国境部）は、2011/12年度（10月～翌年9月）にブラジルで生産されたトウモロコシ（7298万トン）のうち、31.6%を生産した。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部3州（マットグロッソ州、マットグロッソドスル州、ゴイアス州）は、同42.6%を占めた。

① 主要政策

2011/12年度（農期2011年7月1日～2012年6月30日）は、農務省（MAPA）が管轄する農業部門に対し、過去最大規模となる前年比7.2%増の1072億リアル（約5兆4028億8000万円）が予算措置された（表4）。

表4 2011/12年度の農業部門予算内訳

（単位：億リアル）

農業年度	2007/08	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12
総予算額	580	650	925	1,000	1,072
営農・販売融資	491	548	662	756	802
投資融資	89	102	140	180	205
特別融資	-	-	123	64	65

注：「特別融資」は、砂糖・エタノール製造施設の建設など特定産業への融資のこと。

このうち、営農融資は、生産にかかる費用を対象に年利6.75%で融資を行うこととした。また、昨今の繁殖もと牛の減少による牛肉価格の高止まりや、砂糖・エタノールの供給不足の対策として、①肉牛生産者に対する繁殖もと牛の購入時の融資、飼育管理に要する

経費に対する融資②さとうきびの株出しと植え付けにかかる融資、が創設された。販売融資部門では、最低保証価格を基礎とした価格暴落時の融資（連邦政府貸付金（EGF））や政府買い上げ（連邦制度買い上げ制度（AGF））、および中西部など港までの流通が不利な生産地の農畜産物を対象に、流通の促進に係る融資（農産物流通助成金（PEP））を行った。2010/11年度までは、両融資をするにあたっては作物ごとに融資限度額を定めていたが、昨今の好調な国際相場を考慮して、2011/12年度は穀物に限り、生産規模に関わらず1生産者当たりの融資限度額を65万リアル（約3528万円）と定めた。

投資融資については、前年度比13.8%増の205億リアル（約1兆332億円）が予算措置された。昨年度、持続可能な環境保全と農業生産を両立させる生産システムの構築に向けた投資を推進すべく創設された低炭素排出型農業プログラム（ABC）に対しては、2011/12年度も前年度と同額の31億5000万リアル（約1587億6000万円）が予算措置された。また、中規模農業者支援国家プログラム（PRONAMP）も引き続き重要視され、2011/12年度は21億リアル（約1058億4000万円）が予算措置された。

② 飼料穀物の需給動向

2011/12年度（10月～翌9月）のトウモロコシ生産は、前年度比27.1%増の7298万トンであった（表5）。2011/12年度第1期作は、ラニーニャ現象によって、飼料穀物（大豆、トウモロコシなど）の主要生産地である南部を中心に干ばつ被害に見舞われ、単収が大きく低下した。ただし、第1期作減産の影響によりトウモロコシ価格が堅調に推移して生産意欲が高まった

ため、第2期作の作付面積は前年度比29.4%増と大きく増加した。第2期作は、好天に恵まれ、かつ高収量品種の導入や肥料への投資が進んだことで単収が大幅に増加した。これにより、例年であれば、第1期作の生産量の方が第2期作よりも多いが、2011/12年度はわずかにこれが逆転し、第2期作の生産量がトウモロコシの総生産量の50.2%を占めた。トウモロコシ輸出量は国際市場価格の高止まりや輸送コストの軽減を図る政府の支援（PEP（農産物流通助成金））を受けて好調に推移し、前年度139.6%増の2231万トンとなった。国内市場に5153万トンが供給され、587万トンが期末在庫として次年度に繰り越したとなった。

2011/12年度の大豆の生産量は、前年度比11.9%減の6638万トンとなった（表6）。輸出量は、同1.6%減の3247万トンで、国内市場には3675万トンが供給された。また、期末在庫は44万トンとなった。

表5 トウモロコシの需給表

(単位:千トン)

区分/年度	2007/08	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12
期首在庫	1,824	7,676	7,113	5,589	5,963
生産量	58,652	51,004	56,018	57,407	72,980
輸入量	652	1,182	392	764	774
消費量	46,084	45,414	46,968	48,486	51,533
輸出量	7,369	7,334	10,966	9,312	22,314
期末在庫	7,676	7,113	5,589	5,963	5,870

資料: CONAB

表6 大豆の需給表

(単位:千トン)

区分/年度	2007/08	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12
期首在庫	3,676	4,540	674	2,607	3,017
生産量	60,018	57,162	68,688	75,324	66,383
輸入量	96	99	118	41	267
消費量	34,750	32,564	37,800	41,970	36,754
輸出量	24,500	28,563	29,073	32,986	32,468
期末在庫	4,540	674	2,607	3,017	444

資料: CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

2011年におけるトウモロコシ価格（サンパウロ州）は、前年度比48.8%高の60キログラム当たり26.33レアルとなった（表7）。

大豆価格についても、トウモロコシ同様、2011年平均では、前年比15.0%高の同42.86レアルであった。

表7 トウモロコシ価格の推移(サンパウロ州)

(単位:レアル/60kg)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011
生産者販売価格	20.42	22.42	18.11	17.7	26.33

資料: CONAB